

CLIを使用したスイッチのDHCP信頼インターフェイス設定

目的

この記事では、コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してスイッチのDHCP信頼インターフェイス設定を設定する方法を説明します。

概要

Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)スヌーピングは、誤ったDHCP応答パケットの受信を防ぎ、DHCPアドレスを記録するセキュリティメカニズムを提供します。これは、デバイス上のポートを信頼できるポートまたは信頼できないポートとして扱うことによって行われます。

信頼できるポートは、DHCPサーバに接続され、DHCPアドレスの割り当てが許可されるポートです。信頼できるポートで受信されたDHCPメッセージは、デバイスを通過できます。これらのポートからのパケットは自動的に転送されます。DHCPスヌーピングが有効になっていない場合、デフォルトですべてのポートが信頼されます。

信頼できないポートとは、DHCPアドレスの割り当てが許可されていないポートのことです。デフォルトでは、信頼できると宣言するまで、すべてのポートが信頼できないと見なされます。

スイッチのWebベースのユーティリティを使用してDHCP信頼インターフェイス設定を構成する方法については、[ここをクリックしてください](#)。

該当するデバイス

- Sx300シリーズ
- SG350Xシリーズ
- Sx500シリーズ
- SG500X

[Software Version]

- 1.4.8.06 - Sx300、Sx500、SG500X
- 2.3.0.130 - SG350X

DHCP信頼インターフェイスの設定

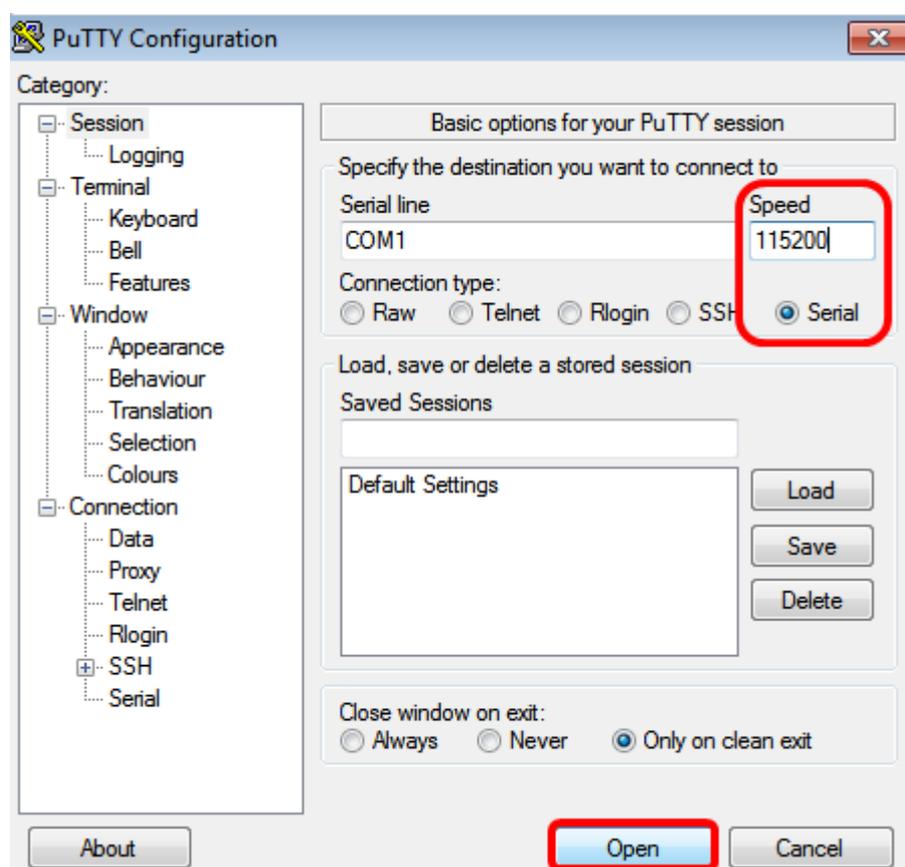
この記事では、スイッチでDHCPスヌーピングがすでに有効にされていることを前提としています。

ステップ1: コンソールケーブルを使用してコンピュータをスイッチに接続し、ターミナルエミュレータアプリケーションを起動してスイッチのCLIにアクセスします。



注：この例では、ターミナルエミュレータアプリケーションとしてPuTTYが使用されています。

ステップ2:[PuTTYの設定(PuTTY Configuration)]ウィンドウで、接続タイプとして[シリアル (Serial)]をクリックし、シリアル回線のデフォルトの速度である115200を入力し、[開く (Open)]。



ステップ3:CLIで、次のように入力して、グローバルコンフィギュレーションコマンドモードに入ります。

注：この例では、使用するスイッチはSG350X-48MPです。

ステップ4：グローバルコンフィギュレーションモードで、次のように入力して、信頼できるタグを付ける特定のポートまたはインターフェイスを入力します。

注：この例では、インターフェイスge1/0/1が使用されています。これは、ギガビットイー

サネットポート番号/スタック番号 (スイッチがスタックに属している場合) /スイッチ番号
を表します。

ステップ5 : 次のように入力して、trustコマンドを入力します。

注 : プロンプトが (config) から (config-if) に変更され、前のコマンドで説明した特定のポート
の設定であることを示しました。

ステップ6 : 次のように入力して、特定のインターフェイスとグローバルコンフィギュレー
ションコマンドモードを終了し、特権EXECモードに戻ります。

ステップ7: (オプション) 設定を永続的に保存するには、次のように入力します。

ステップ8 : ファイルの上書きプロンプトでYと入力し、「はい」を示し、設定をスタート
アップコンフィギュレーションファイルに保存します。

ステップ9: (オプション) 次のように入力して、選択したポートに新しく設定された設定が
適用されているかどうかを確認します。

新しく設定された設定が表示されます。

```
DHCP snooping is Enabled
DHCP snooping is configured on following VLANs: 1
DHCP snooping database is Disabled
Relay agent Information option 82 is Enabled
Option 82 on untrusted port is allowed
Verification of hwaddr field is Enabled

Interface    Trusted
-----
gi1/0/1     Yes
```

これで、CLIを使用してスイッチの信頼インターフェイス設定が正常に設定されました。